



しんわ

No.150

夏季号

2025年

I H I
播磨病院



* 好塩基球君？

* 昇格者挨拶

* 光干渉断層計（OCT）について

* 新人紹介



好塩基球君？

副院長 森田 秀樹

免疫担当細胞を検索しますと、はたらく細胞というコミック本で赤血球、樹状細胞、好酸球、好塩基球などを擬人化した漫画が検出されます。NHKのEテレで放送されたり、映画化され、樹状細胞や好塩基球は、親しまれた用語になってきているようです。樹状細胞君は、グリーンの衣服をまとった爽やかな青年として描かれています。好塩基球君はダークな衣装をまとい、顔は覆い隠され、得体の知れない感じで描かれています。まだ、不明なことが多い好塩基球の立ち位置としては、その様な扱いになると思われますが、好塩基球の研究者間では、もう少し、明るく描いてもいい作用もある。と言った評価のようです。

好塩基球はPaul Ehrlichによって140年以上前に発見されていましたが、末梢血白血球の0.5%を占めるのみで寿命も短く、解析が困難なため、その機能は長年、ベールに包まれていました。肥満細胞との類似点も多く、肥満細胞の亜型と考えられていたこともあります。現在では皮



好塩基球（アニメ「はたらく細胞」より）

膚アレルギーにも関与していることが明らかになっています。マウスの慢性皮膚アレルギーモデルの解析では好酸球が多数浸潤しており、好塩基球は少数認められるのみです。ところが、好塩基球を除去すると慢性アレルギー炎症は生じません。これらの所見により、好酸球は実際の炎症に関与し、好塩基球は、炎症を誘導していると考えられています。好塩基球を治療のターゲットにすると好酸球が多数浸潤している炎症には有効ではありません。初期か、炎症が改善している時に悪化、再燃を防ぐ効果はあると思われます。

アトピー性皮膚炎の新規治療薬も多数開発され、治療の選択肢は増えています。その中でもモイゼルト外用剤は好塩基球の活性化を阻害して皮膚炎を抑制することが示されています。ステロイド外用剤に比し効果はシャープではないので、ステロイド外用から開始し、改善すればモイゼルトに変更するのが一般的です。

IL-4、IL-13、IL-31をターゲットにした生物製剤やJAK阻害剤の内服等でアトピー性皮膚炎が難治な場合にも対応出来るようになりました。この様な製剤で皮疹が改善した時にモイゼルト等の非ステロイド系外用剤でツルツルの皮膚にするのが最近のトレンドとなっています。

アトピーカフェと称し、定期的に外用療法や生活指導を行っているクリニックもあり、薬物療法のみならず、心身医学的なアプローチも併用することにより効果をあげているようです。

好塩基球は肥満細胞と共通事項が多く、肥満細胞に比し、目立たない存在でした。現在、好塩基球は、Th2型反応に重要な役割を果たすことがわかってきました。好塩基球に作用するモイゼルト以外にもダイオキシンの研究中に、開発されたブイタマーも加わり、外用療法の選択肢も増えています。基礎的な作用機序を知った上で臨床効果を吟味すると、日常診療のアクセントとなり活力が沸きます。



Archives of Dermatological Researchに掲載された論文

昇格者挨拶

4月より、診療技術部部長ならびに理事を拝命いたしました。責任の重さを感じつつ、さらに日々精進していきたいと考えております。

日頃は、各科の皆様にご協力頂き、この場をかりて感謝申し上げます。ありがとうございます。

診療技術部においては、各科部門長会を月に1回開催し、業務の検討や情報交換を行っており、それぞれの業務の見える化や各科の抱えている問題などの把握を行っています。今年度は、業務のタスクシフト、タスクシェアやコスト意識を持つことを課題として取り組んでいきたいと話合っています。

近年、医療業界は厳しい状況が続いていますが、当院は、地域医療においてなくてはならない病院であることを、患者さんや患者家族の方からの声を聞くことでひしひしと感じています。

微力ながら、当院の発展のために尽力していきたいと思いますので、今後ともご指導ご協力のほどよろしくお願いします。



理事 診療技術部部長
兼 薬剤科課長

石田 詞子

今年4月より訪問看護ステーションプラムの所長に任命されました國本と申します。近年、ますます高齢者が増加し、独居・あるいは老々介護する高齢者夫婦が相生市も増えています。その中で、訪問看護を必要とする方々に、医師をはじめ、外来看護師・病棟看護師・透析看護師・地域連携室のスタッフが声掛けしていただき、利用者の確保ができていると思っています。また、地域病院・ク

リニックや、各居宅事業所のケアマネージャーとの連携を大切にし、利用者様が安心して安全に、在宅療養できる環境づくりに努めています。プラムのスタッフは、全員とても明るく利用者様のために力を合わせて、訪問しています。困った方がいれば全力で支援しますので、今後とも宜しくお願いします。



訪問看護ステーションプラム

所長 國本かおり

このたび、回復期リハビリテーション病棟の看護師長を拝命いたしました。

相生市は穏やかな海と自然に囲まれ人と人のつながりが深い、あたたかいまちです。

そんな地域で、在宅復帰を目指す患者様の支援に携わることにより、師長という立場から身の引き締まる思いであります。回復期リハビリテーション病棟は住み慣れたご自宅で再びその人らしい生活を取り戻して頂くための大切な時間です。私達看護師はリハビリスタッフや医師、地域の介護・福祉職と連携し、患者様の目標や生活背景に寄り添いながら切れ目ない支援に努めてまいります。至らぬ点も多くございますが、何卒ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



3階病棟 看護師長
小野 美季

4月より放射線科副科長を拝命いたしました増田です。

今までは主任2人体制(兼任科長)でしたが、4月から副科長1人に集約され、今まで以上に責任を感じています。

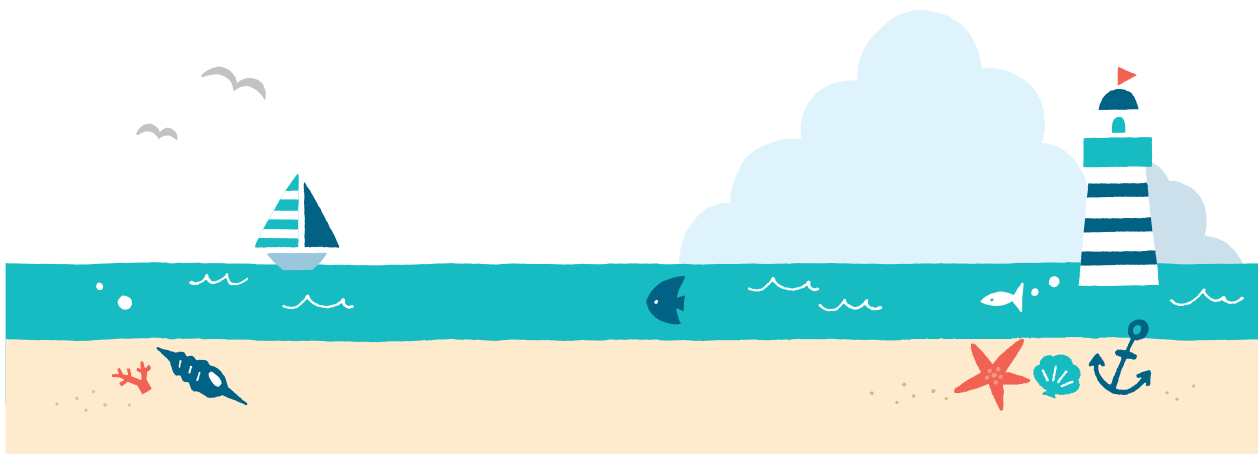
CT・MRI・FPD(一般撮影)も更新2年目をむかえ、稼働率・検査数アップが当面の課題であり、関係各所にはこの場をかりてよろしくお願い致します。

また医師の働き方改革の一環として、造影剤静脈路の確保とそれに附随する業務が、放射線技師にも拡大されました。医療安全に注視し少しずつですが業務拡大に努めています。

私自身微力ではありますが、放射線科が少しでも病院のお役に立てるように頑張っていきたいと思います。今後ともご指導ご協力のほどよろしくお願い致します。



放射線科副科長
増田 直敏



網膜や視神経の形態を画像化する

「光干渉断層計

(optical coherence tomography: OCT)」について

視能訓練科 主任 内藤 葉子

人が得る情報の8割は「眼」から入ると言われています。

スマートフォン、IT機器に囲まれ、子供も大人も「眼を酷使している現代社会」で、「眼の健康」を保持することは非常に重要です。

みなさん、ご存知ですか？

日本人の中途失明原因は、第1位：緑内障、第2位：糖尿病網膜症、そして網膜色素変性症、加齢性黄斑変性症と続きます。これらは網膜や視神経に異常が出る疾患です。

これらの病気を早期発見するため、当院の眼科にも「光干渉断層計」(optical coherence tomography:以下OCT)が導入されています。

現在の眼科診療において、画像検査は標準必須検査と言えます。

撮影原理は省略しますが、この「OCT」は眼底の表面だけでなく網脈絡膜や視神経乳頭の断層画像を撮影し、立体的に観察することが出来ます。

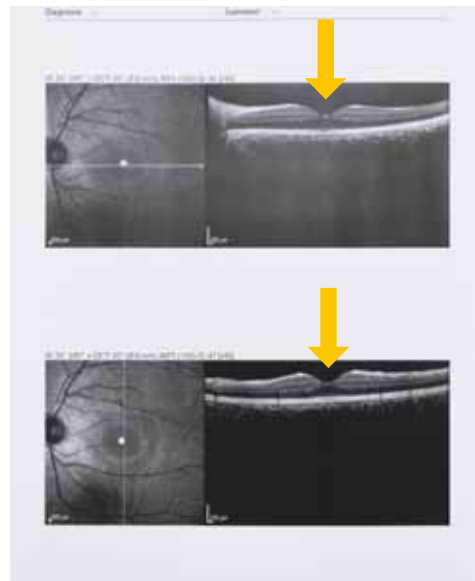
加齢性黄斑変性症 (AMD)・黄斑円孔・糖尿病網膜症等の網膜疾患や、緑内障の早期発見、治療、経過観察などにとても有用です。

実際、OCTの普及に伴い、適確な診断治療がなされ、ひと昔前より緑内障の診断がかなり増加したと感じています。

また、OCTは従来の眼底検査と異なり、検査時間が短く、造影剤も使用しません。患者さんの心身の負担も少なく安全で、たいへん優秀な画像検査機器です。

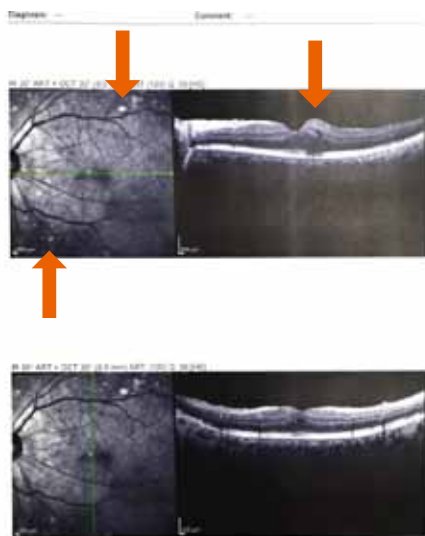


光干渉断層計



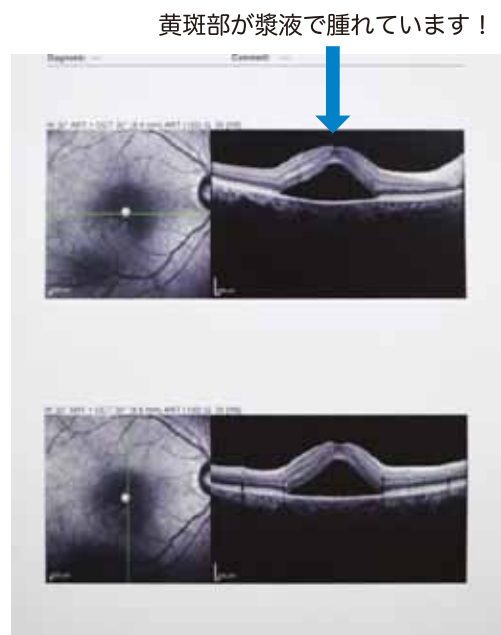
正常眼底

↓部分が指す凹部は「黄斑部」で、物を見るのに一番大切な部位です。これが正常な形です。
90度と180度の網膜断層で表示されています。



糖尿病網膜症（前増殖期）

↓は糖尿病による網膜虚血の無血管領域のレーザー痕。
大きい矢印部分は浮腫がおこっているのが分かります。

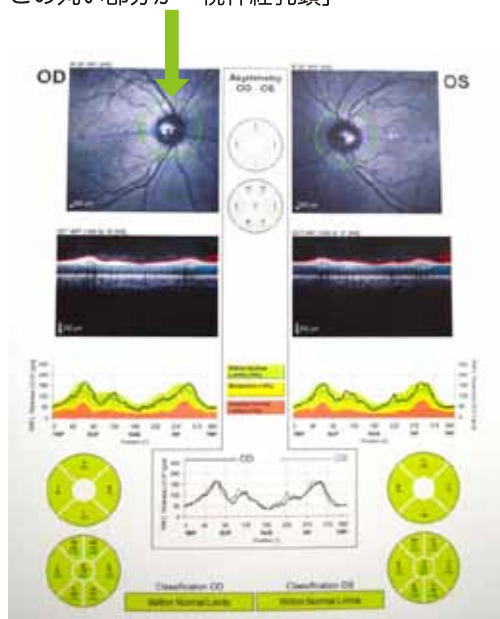


黄斑部が漿液で腫れています！

中心性漿液性脈絡網膜症

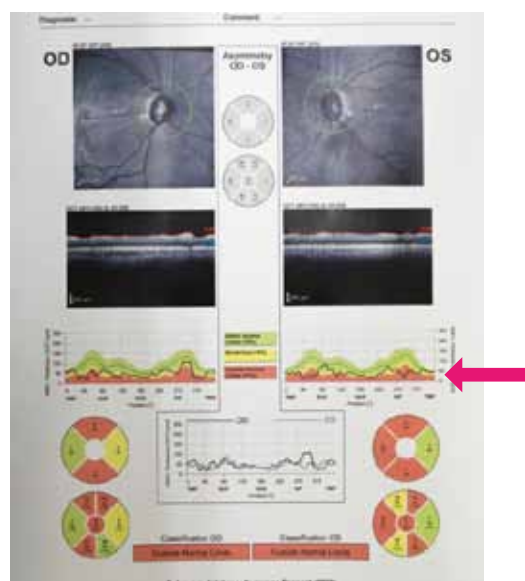
ストレスやステロイド等の影響での↓黄斑部に
漿液性網膜剥離を起こす疾患。通常片眼性。30
～50歳の壮年男性に好発します。

この丸い部分が「視神経乳頭」



正常視神経乳頭

正常な視神経繊維層は「緑」で表示。



緑内障

←部分にご注目。神経線維層の菲薄化は正常
な「緑」から「黄」→「赤」で表示されます。
この結果と視野検査等の結果を併せて診断され
ます。

糖尿病・高血圧・視神経乳頭陥凹拡大等の患者さんがおられましたら、是非、眼科受診をお奨めして頂き、病気の早期発見・早期治療する事で、患者サービスの向上に努め、地域医療への貢献に繋がっていきたいと考えます。